

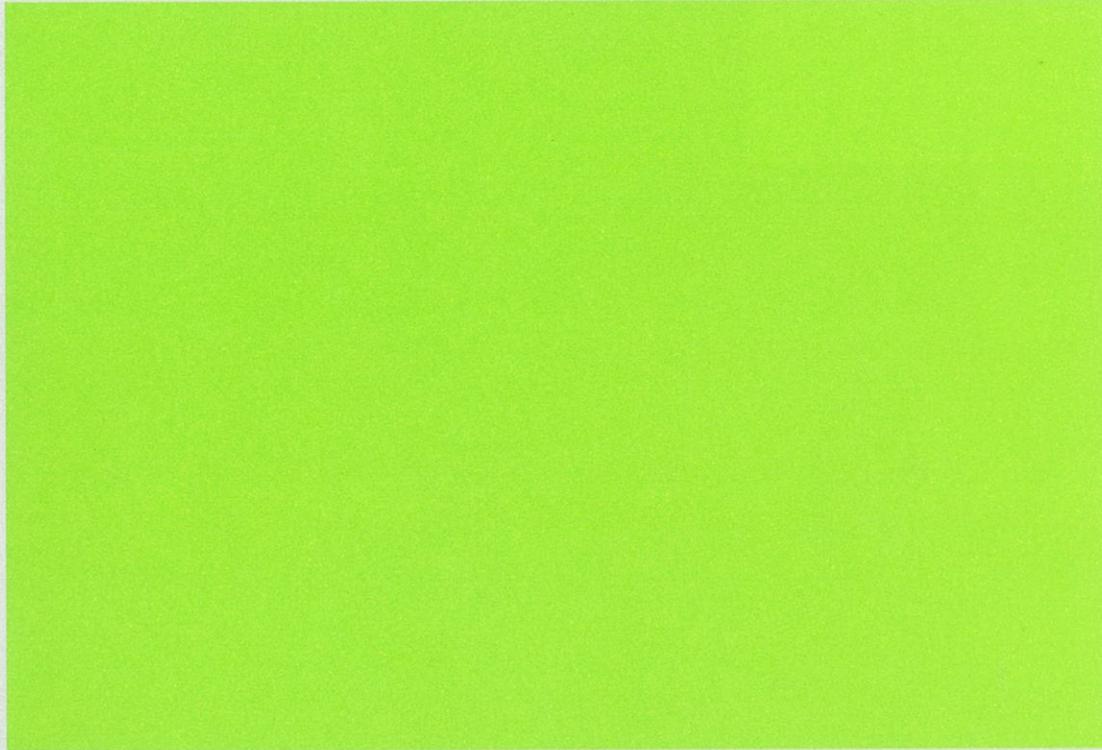
# MAD

School of Contemporary Art



Organized by Arts Initiative Tokyo  
Twin Bldg. A-502, 30-3, Sarugaku-cho  
Shibuya-ku, Tokyo 150-0033 Japan  
<http://www.a-i-t.net>

Making Art Different



## Curatorial Studies

Definitions of the Curatorial  
Twentieth Century Art History  
through Exhibition History  
Curatorial Practices from the 1960s  
Curatorial Practices from the 1990s  
Knowledge Production and Exhibitions  
Reading and Understanding Social Space  
Out There: Experimental Curatorial Practices  
New Institutionalism, New Approaches  
Communities, Rural Regions and Art  
The Arena of International Exhibitions  
Archives and Curatorial Practice

## Art + Communication

Modernism and the Expansion of Sculpture  
Histories of Photography  
Painting through the Twentieth Century  
Painting the Contemporary  
Film, Video, Moving Image  
Installation Art and Performance  
When Participation Becomes Art  
Moving Image and Animation Now  
Public, Art and Public-ness.  
The Archival Impulse  
Mapping Art Worlds  
Japanese Cultural Policy and Art  
Art Markets, Creative Industries  
Neo-Liberalism and the Fate of Museums  
The Multiplying Role of  
International Exhibitions

## Artist

## Magazine

### Free Blocks

### Workshops

Bodies in Communication  
Let's Make an Art Zine  
Critical Art Writing  
Reading Urban Space

### Art & Theory

Art as Trickster: Jean Fisher  
Beauty and the Sublime  
Dissecting Venice  
The Grammar of Social Space  
The Politics of Aesthetics  
The Possibility/Impossibility of  
Creating Community  
Gazing at Japan:  
Bruno Taut and Anjo Sakaguchi.

### The Art Industry

Fundamental Structures in the Art World  
The Power of Communities and  
the Future of Art  
Studying Curating Abroad  
Art That Comes From Alternative Spaces  
Cultural Policy and the Changing Nature  
of National Museums  
Managing Art, Project-Making  
Working in a Commercial Gallery and  
the Global Art Market  
International Cooperation:  
Personal and Knowledge Networks  
Creating Artist in Residences

### Art and New World Orders

Representations of Memory and  
Visual Culture

Neo-Liberalism and the Trace of Art  
The Matrix of Biennales  
Post-colonialism and  
Questions of Representation  
The Creole and The Formless

### Art Through the City

Re-thinking Architecture  
from the Living Body  
Artist, Unconscious and The Modern City  
The Situationist City: Drift,  
Detourn, Diversion  
The Body in a Network Situation  
Conceptual Art in the 1960s  
The History Game: Notions of the Public  
in the Age of Creative Cities

### Art and Gender

ACT-UP! Dynamics of Representation  
Gender, Space and the Political  
Feminism and Art in the 1970s  
The Body in Video

### Art and The Transcendental

The Loss of the Religious Image  
from Romanticism to Early Abstraction  
Influences and Ideas from Beyond Europe  
Another Story of Abstract Modern Art:  
Robert Rosenblum's Thesis  
Mark Tobey and Japan: Zen Shocks and  
Abstract Painting  
Towards Non-Knowledge

## Course Directors

Keisuke Ozawa  
AIT

Roger McDonald  
AIT

## MAD 2010 Lecturers

Takashi Ishida  
Artist / Filmmaker / Lecturer, Tama Art University

Eriko Osaka  
Director, Yokohama Museum of Art

Fram Kitagawa  
President, Art Front Gallery  
General Director, Chichu Art Museum  
Director, Niigata City Art Museum

Kenji Kubota  
Freelance Curator

Meiro Koizumi  
Artist

Yuko Shiomi  
AIT

Misa Shin  
President, Misa Shin & Co.  
Executive Director, Art Fair Tokyo

Fumihiko Sumitomo  
AIT

Akira Tatehata  
Director, The National Museum of Art, Osaka

Kyongfa Che  
Freelance Curator

Yoshiharu Tsukamoto  
Architect, Atelier Bow-Wow

Noriyuki Tsuji  
Curator, Tokyo Metropolitan Museum of Photography  
Translator

Masato Nakamura  
Artist

Fumio Nanjo  
Director, Mori Art Museum

Aki Hoashi  
Art Coordinator

Kenjiro Hosaka  
Assistant Curator, The National Museum of Art, Tokyo

Naoko Horiuchi  
AIT

Yoshitaka Mouri  
Associate Professor, Tokyo University of the Arts

Hiroharu Mori  
Artist

Tomoko Yanashita  
Nikkei Inc.

Fuyuki Yamakawa  
Throat Singer / Performance Artist

Yuko Yamamoto  
Representative, YAMAMOTO GENDAI

Mitsuhiro Yoshimoto  
NLI Research Institute

## Special Lectures Guest Lecturers

Taro Igarashi  
Professor, Tohoku University

Naoya Hatakeyama  
Photographer

Jun Hirose  
Lecturer, Ryukoku University

Michiko Kasahara  
Chief Curator, Tokyo Metropolitan  
Museum of Photography

Raiji Kuroda  
Chief Curator, Fukuoka Asian Art Museum

MAD: Making Art Different 2010

見るから考える、そして自分のものにする。  
現代アートの奥深さにもっと近づきます。



MAD (Making Art Different =アートを変えよう、違った角度で見よう)は、NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ[AIT/エイト]が2001年に開講した現代アートの教育プログラムです。キュレーターやギャラリスト、アーティストなどの専門家を迎え、グローバル化した社会においてさまざまに生み出される現代アートの作品やプロジェクト、展覧会、現象、議論などを、美術史はもとより、哲学思想や社会学など現代のアートに関連する学問領域を参照しながら、より多角的に、深く、体系的に捉えて考察します。

初めて現代アートに触れる人から専門的に学びたい人まで、さまざまな知的好奇心に応えるプログラムです。受講生は、各コースの必修レクチャーのほかに、フリー・ブロックとよばれる選択制講座から指定された数の講座を受講することができます。レクチャーは、すべてAITルーム(代官山)で行われます。

これらの基本コースのほか、「集中講座」とオンラインで学ぶ「E-MAD」を開講しています。

キュラトリアル・スタディーズ **New** 5  
2010年4月開講 12ヶ月コース／キュレーティング(展覧会の企画・制作)を理論と実践から総合的に学びます。キュレーティングの歴史や現代性を、さまざまな学問領域を横断しながら考察し、今日におけるキュレーティングの可能性を追求します。

アート+コミュニケーション 6  
2010年4月「20世紀の美術史 編」、9月「1990年代から2000年代の美術理論 編」、2011年1月「アート界の仕組 編」開講 前・中期4ヶ月コース、後期3ヶ月コース／前期は、絵画や写真、ビデオなどの表現形式別に20世紀の美術史の基礎知識を身につけます。中期は、1990年代以降のグローバル化とともに多様化・複雑化してきた表現を、関係性の美学や公共性などをテーマに読み解きます。後期は、アート界の構造や市場、文化政策などをテーマに、今日のアート界を描き出します。  
前期、中期、後期のいずれか1つのみ、2つ合わせて、あるいは通年での組み合わせで受講が可能です。  
\*受講できるレクチャー数は、前・中・後期で、それぞれ同じです。

アーティスト **New** 8  
2010年4月、9月、2011年1月開講 各3ヶ月コース／アート界や一般社会に対して自ら表現したものを働きかける上で必要とされる言語や考え方を身につけ、アーティストとしての活動戦略を、国内外で活動しているキュレーターやアーティストとともにレクチャーやディスカッションをとおして深めます。

マガジン 9  
2010年4月、9月、2011年1月開講 各3ヶ月コース／コース・ディレクターが海外のアート雑誌やウェブの英文記事を読み、受講生たちと議論することで、世界各地で展開する現代アートと同時に国内のアートシーンも読み解きます。市場の動向や、多様化する現代アートと社会の関係性など、国内ではなかなか触れることのできないアートの一面に迫ります。  
講読する雑誌とウェブサイトの例: Art Asia Pacific(アメリカ)／Art Forum(アメリカ)／frieze(英国)など

フリー・ブロック 10  
フリー・ブロックは、MADの4つのコースに共通した選択制講座です。現代アートを理論的・実践的に考えてゆく上で重要となる専門的な知識や研究、スキルを網羅的に取り上げます。受講生は、コースと期間に応じて科目を選択し、受講することができます。(フリー・ブロックのみの受講は不可)

集中講座 13  
現代アートをより深く理解するため、「現代」を、アートに深く関係するさまざまな学問領域である芸術理論、建築、アジアの近代、現代思想、写真、ジェンダーから専門的に読み解く6つの集中講座を開講します。(フリー・ブロックの受講は不可。)

MAD2010 概略図 4つのコースとフリー・ブロックが一目で見渡せる全体図 14

スタッフ MAD2010を運営しているAITのスタッフ紹介 20

MAD2010レクチャー／集中講座 ゲスト・レクチャー 20

修了生の声 MADを修了した学生・社会人の今を紹介 21

コース概要 MAD2010の各コースと集中講座の概要 22

E-MAD **New** 24  
2010年5月(予定)にオンラインのMADが新しく開講します。コースは、20世紀におけるアートの進化を1900年から1年ずつ丁寧に紐解いてゆく「1900年以降のアートの歩み」と、世界のアートシーンから注目の話題を取り上げる「現代アートの最前線」の2コースです。(フリー・ブロックの受講は不可。)

モノやイメージ、プロセス、場、歴史、思考を結び、空間において視覚化することによって、どれだけ人々の考え方や身体のあり方に影響を与え、世界の見え方を変えることができるのか。それを考え、実践することに、キュレーティングの可能性はあるはずだ。

キュレーティングとは、いったいどのようなことを指すのでしょうか。

私たちがよく知っている美術館の原型は、18世紀末に開館したルーヴル美術館にまで遡ることができます。当時、美術館は、収集・分類・公開・保存作業による美術品の蓄積によって人間が作り出す「世界」を表象する場であり、キュレーティングもその大義に従って行われていました。20世紀後半になると、そのようなキュレーティングのあり方自体が疑問視されるようになりました。例えば、1969年のハラルド・ゼーマンによる「態度が形になるとき」展は、アーティスト・イン・レジデンスと展覧会を組み合わせた実験的なプロジェクトで、その新たな可能性を明らかにした出来事の一つであったといってもいいでしょう。

今日では、美術制度のみならず、90-00年代をとおして世界規模で進行した経済の自由化政策と深く関わりながら、キュレーティングはますます多様化を極めていくといえます。アート・フェアでは、キュレーターによるプロジェクトが生まれ、市場価値に偏りすぎないマーケット活動を推進する傾向が見られます。国際展では、アート・マーケットの動きと部分的に足並みをそろえるヴェネツィア・ビエンナーレから、国際展という形式自体を自己批判的に問う実験性の高いサンパウロ・ビエンナーレ（2008年）、あるいは権力によって抑圧されてきた市民が、再び市民社会を取り戻す可能性に取り組んだ光州ビエンナーレ（2008年）まで、そのキュレーティングの振幅は大きくなっています。また、経済の自由化は、世界的な規模で公立の美術館にも影響を与えています。民営化によって経済的自立を求められている美術館ですが、特にヨーロッパでは「ニュー・インスティテューショナルリズム（新組織主義）」と呼ばれる潮流を生み、現代アートを軸に音楽や文学などのプログラムが、展示室のみならずカフェや図書室、ラウンジ、ホールなどで行われるなど、芸術や物理的空間の領域を横断しながらさまざまな試みられています。さらに、地域創造・再生プロジェクトとして、過疎化が進む里山や地方都市の産業遺構、シャッター通り、廃校、空き家、あるいは反対に、経済活動の原理のみで運動しているかのように見える都市のオフィスや空地などを舞台に、さまざまな規模のキュレーティングが行われるようになってきました。

「ニュー・インスティテューショナルリズム」の旗手の一人、キュレーターのマリア・リンドが、政治哲学者ジャンタル・ムフの考えに依拠しながら「キュラトリアルなもの」というとき、キュレーティングは、単なる作品を集めた「場」ではなく、それが行われる場の歴史や社会性、アーティストや作品などの要素すべてを活性化させながら、すでに出来上がっているシステムに関係を持つことで摩擦を起こし、新たな知を生み出す「状況」を意味します。新自由主義や金融危機、地域創造など、時代を彩る言葉が踊る現代を洞察し、展覧会やプロジェクト、イベント、文章などの形で、刻々と変化する「世界」を捉えて考える「状況」を、アーティストやオーディエンスと一緒に作り上げること、これが今日のキュレーティングの意義と考えてもいいでしょう。

MADのキュラトリアル・スタディーズは、そのようなキュレーティングの可能性を、理論と実践の双方から探ります。

2010年4月から2011年3月にかけて開講されるコースで、キュレーティングの歴史や形式の多様性、また1990年代以降の傾向を、美術史や美術理論、哲学思想や社会学などを参照に学び、現代におけるキュレーティングを追究します。

キュレーティングを実践したい、あるいは特定のテーマについて調査したい人は、コース内の助成金制度に申請し、審査を経て活動資金を調達し、計画を実行することができます。企画立案および制作のためのワークショップであるチュートリアルをとおして、コンセプトや形式の設定からアーティストの選択、企画書作成、予算組み、広報などのキュレーティングに必要な不可欠な業務について学び、人的・知的ネットワーク形成をとおして、現代アートのキュレーティングの可能性を追求します。

将来キュレーターとして現代アートの分野に専門的に携わりたい、知識をつけながらアーティストや仲間と一緒に何かやってみたい、あるいは今後海外でキュレーティングを学びたいと考えている方を対象にしたコースです。

コースの構成

必修レクチャー：11回

フリー・ブロック：30回

チュートリアル（展覧会企画制作のためのワークショップ）：10回

キュラトリアル・スタディーズ 必修レクチャー

○キュレーティングとは？：ロジャー・マクドナルド（AIT）／小澤慶介（AIT）

16世紀以降ヨーロッパ諸国で見られた「驚異の部屋」から、18世紀末のルーヴル美術館誕生、そして19世紀中ごろに原型が作られた国際展など、世紀を越えて多様化するアートの制度空間を巡り、キュレーターあるいはキュレーティングに対する理解を深めます。

○展覧会をとおして見る20世紀の美術史：ロジャー・マクドナルド（AIT）／小澤慶介（AIT）

1910年代におけるダダなどの活動、1970年にMoMAで行われた「Information」展、1990年代後半にヨーロッパを巡回した「Cities On The Move」展などの重要な展覧会を取り上げながら、抵抗や代案、移動などをキーワードに、20世紀のアートの進化を探ります。

○1960年代以降のキュラトリアルな実践：ロジャー・マクドナルド（AIT）

コンセプトチュアル・アートや非物質的な作品、時間とともに変化し続ける作品など、それまでに見られなかった表現が出てくるなかで、ゼーマンやリパード、シーグラウブなどのキュレーターはどのような状況にどう反応したのかを眺めます。

○1990年代以降のキュラトリアルな実践：ロジャー・マクドナルド（AIT）

1980年代後半の多文化主義や新自由主義体制のもとで加速したグローバリゼーションに鋭く反応したキュレーターの活動をとおして、「パフォーマンス」や「関係性の美学」、「プロジェクト」、「新組織主義」など、キュレーティングの今を読み解くキーワードを考えます。

○知の生産と展覧会：小澤慶介（AIT）

何を目的に、誰が、何を、誰に対して、どのように提示するのかという意味で、展覧会はずぐれて政治的な装置といってもいいかもしれません。展覧会の知を生産するメカニズムについて具体的に解説しつつ、それが捉えきれない知のあり方にも思いを巡らせてみます。

○社会空間の読み方とキュレーティング：小澤慶介（AIT）

美術館であれ、ウェブであれ、新聞であれ、いずれにしてもキュレーティングには「空間」が伴うと考えられます。空間の概念をフランスの哲学者ルフェーヴルやフーコーなどの考えをとおして考察しながら、キュレーティングと空間の関係性について考えます。

○オルタナティブなキュレーティングと実験性：崔敬華（フリーランス・キュレーター）

美術館やギャラリーなどの制度空間には属さずに、多様な社会空間、組織、個人と関係を築きながら、独自の表現と発信方法を探るキュレーティング。リサーチやコミュニケーション、ネットワークをキーワードに、具体例をとおしてその可能性を探ります。

○新しい美術館の戦略とキュレーティングの変化：逢坂恵理子（横浜美術館 館長）

民営化の波における指定管理者制度の導入により、さまざまな変革を迫られる公立美術館。展覧会や教育プログラム、イベントなどさまざまなプログラムをとおして、いきいきとした場作りと良いオーディエンスを育てる新たな美術館の取り組みについて考えます。

○地域創造とアートの関係性：小澤慶介（AIT）

ヨーロッパの国際展マニフェスタや、大地の芸術祭など、90年代以降に都市や地域を主体とする展覧会やイベントは国内外を問わず増えました。地域の地理的特性や資源に注目しながら、その外部との関係のとり方を視覚化するキュレーティングについて考えます。

○多義化する国際展：ロジャー・マクドナルド（AIT）

国際展という言葉や人種、宗教が混在する空間とキュレーティングの関係を考えます。レクチャーがキュレーターを務めたシンガポール・ビエンナーレ2006を例に、コンセプトの立て方やアーティストの調査、関係各機関との調整などから、国際展の政治力学について考えます。

○アーカイヴとキュレーティングの現在：ロジャー・マクドナルド（AIT）

近年のアーカイヴについての世界的な関心を読み解きます。エンヴェゾーによる展覧会「アーカイヴ・フィーヴァー」やフォスターのテキスト「アーカイヴへの衝動」などをとおして、その政治性とキュレーティングにおける意義について考えます。

フリー・ブロック：必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心やグループでのキュレーティングの方向性を見極めるための専門的な講座です。キュラトリアル・スタディーズの受講生は30回のフリー・ブロックを選択することができます。テーマはP10を、スケジュールはP14をご覧ください。

2010年4月に[20世紀の美術史 編]、9月に[1990年代から2000年代の美術理論 編]、2011年1月に[アート界の仕組 編]と、3つのコースが開講されます。

前期では、「彫刻の変容」や「写真の歴史」、「近現代の絵画」などのテーマにより、20世紀における現代アートの基礎知識を学びます。中期では、「インスタレーション」や参加型の作品を取り上げる「関係性の美学」、「公共性」などをテーマに、1990年代から現在までの、アートの枠組みを越えて領域横断的に進化する表現についての理論を学びます。後期では、「マーケット」や「美術館行政」、「文化政策」などの点から、アート界の現状を把握し、これから整備されるべき点について議論します。

前・中・後期では必修レクチャーの内容が異なります。前・中期では、現代アートに関する基礎知識を学び、後期ではそれを実社会との関係で明らかにしながら、全体をとおして現代アートと社会の関係性を体系的に習得できるようにプログラムされています。

このコースは、専門的な用語や考え方を少しずつ理解しながら、自分の言葉で現代アートを人々へ伝えてゆきたいと考えている学生や社会人、また、自立的なアートの活動などに関心がある方などを対象としています。

#### コースの構成

[前期]20世紀の美術史 編/[中期]1990年代から2000年代の美術理論 編/[後期]アート界の仕組 編

必修レクチャー:各5回

フリー・ブロック:各10回

#### アート+コミュニケーション 必修レクチャー

[前期] 20世紀の美術史 編

○彫刻の変容とモダニズム:ロジャー・マクドナルド (AIT)

台座に設置され、自律的な作品としてあった近代の「彫刻」は、次第にそれが設置される空間との関係性のなかで考えられるようになりました。近代社会の変化が彫刻という概念に与えた影響を、ブランクーシやジャコモッティなどの作品から眺めます。

○写真の歴史:ロジャー・マクドナルド (AIT) / 小澤慶介 (AIT)

1820年代から30年代にかけて発明された写真術は、「瞬間」の描写力や複製技術であるというメディアの特性により、「世界」に対する人々の認識を変化させました。20世紀前半の思想家ベンヤミンなどの考えをとおして「写真」を考えます。

○近代から現代にかけての絵画史:ロジャー・マクドナルド (AIT) / 小澤慶介 (AIT)

19世紀中ごろのフランスの写真主義から、現代へ至る絵画史の一つの流れを描いてみます。マネやセザンヌ、ピカソからアメリカ抽象表現主義へと至るグリーンバーグの絵画史解釈を踏まえながら、それ以降のジョーンズやラウシェンバーグ、リヒターなどにも言及します。

○現代の絵画論:保坂健二郎 (東京国立近代美術館 研究員)

現代の多様化する絵画表現を、どう解釈するべきか。「プロジェクト」や「身体」、「時間」、「記憶」などのキーワードを確認しつつ、タイムスやデュマス、ドイグ、杉戸洋などの作品を取り上げ、絵画の可能性を浮かび上がらせます。

○映像作品をとおしてみる現代アート:石田尚志 (美術家/映像作家/多摩美術大学 講師)

19世紀末に発明された映画術は、絵画や音楽との影響関係でさまざまな実験がなされました。1920年代のダダイストによる「抽象映画」は、その好例です。20世紀の入口で芸術が向かった「抽象」をキーワードに、さまざまな映像作品から現代アートを探ります。

[中期]1990年代から2000年代の美術理論 編

○インスタレーションと身体性の拡張:ロジャー・マクドナルド (AIT) / 小澤慶介 (AIT)

空間芸術ともいわれるインスタレーションは、場や空間の来歴や性質など、社会・地理学と深い関係にあります。空間の見え方や読み方を変え、また鑑賞者の身体性にも影響を与える装置的な作品形式について、60年代のミニマル・アートから眺めます。

○つながるアート:辻憲行 (東京都写真美術館 学芸員/翻訳家)

90年代以降、理論的にも形式的にも美術表現として確立した「つながり」を形にする参加型の作品。キュレーターで美術批評家のプリオーの著作「関係性の美学」を参照しながら、ゼロ年代そして10年代の動向を、その日本語訳者である辻氏とともに考えます。

○映像作品と視覚文化:小澤慶介 (AIT)

1890年代に発明された映画や1930年代に実用化されたテレビ、さらに1960年代に生まれたビデオアートなどにみる映像の歴史を踏まえて、グローバル化をとおして現れた新たな世界秩序と映像が生み出す「世界」の関係を考えます。

○公共性とアートの実践:毛利嘉孝 (東京藝術大学 准教授)

「小さな政府」を目指した民営化推進政策により、公立美術館においても指定管理者制度などの導入により外部化が進む中で、「公共性」の意味や価値が変容しつつあります。新自由主義的経済の原理の下で後退する「公共性」を問い直すアートの実践について考えます。

○アーカイヴという文化的戦略:住友文彦 (AIT)

記録し、保管する「アーカイヴ」が、美術表現や、美術館やアートセンターの戦略として注目を集め始めています。集める、開示する、更新するといった作業に基づく政治性を踏まえながら、アートの制度や作品をとおしてその実践と可能性を考えます。

[後期]アート界の仕組 編

○アート界の構造と運動:小澤慶介 (AIT)

文化資本の流入や知的・人的交流が活発になりだした80年代後期からの推移を概観した上で、現在の日本のアート界の構造を海外との関係で眺めます。また、アート界の未整備な部分についても触れ、それを展開させる可能性について受講生の皆さんと一緒に検討します。

○日本の文化政策とアートの関係:吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所)

80年代以降の日本の文化政策を概観しながら、政府が進めてきた美術館の独立行政法人化や指定管理者制度導入の影響を、具体例をとおして解説します。あわせて、世界各国の創造都市の動きや、アートNPOの取り組みなど、2000年代以降のアートを取り巻く環境変化について考察します。

○アート・マーケットとアートの産業化:辛美沙 (Misa Shin & Co. 代表/アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター)

アートを価値付け、流通させるアート・マーケットは、コマース・ギャラリーやアート・フェア、オークションなどで構成されています。そのような構造と機能を具体例をとおして概観した上で、近年の金融危機におけるマーケットの動向や新たな取り組みを紹介します。

○新自由主義と美術館の変容:ロジャー・マクドナルド (AIT) / 小澤慶介 (AIT)

世界規模で起こった民営化の流れにおいて、自立的な運営を迫られている公立の美術館。収集や分類、公開、保存といったこれまでの美術館の仕事のほかに取り組んでいる新たなプログラムを、パレ・ド・トーキョーや金沢21世紀美術館などの活動をとおして紹介します。

○国際展の複数の役割:ロジャー・マクドナルド (AIT) / 小澤慶介 (AIT)

90年代のグローバル化に伴う都市間競争の影響下で、爆発的にその数を増やした国際展。美術展でありながら、外貨獲得や都市開発などの要素も少なからず含まれる国際展の姿を、ヴェネツィア・ビエンナーレやドクメンタ、また光州ビエンナーレなどをとおして検討します。

フリー・ブロック:必修レクチャーで得た知識を補充し、さらに受講生各自の関心を深めるための専門的な講座です。アート+コミュニケーションの受講生は、前・中・後期それぞれ10回ずつ選択することができます。通年で受講する方は、全部で30回のフリー・ブロックに参加できます。テーマはP10を、スケジュールはP14をご覧ください。「20世紀の美術史 編」の受講生は4月から7月まで、「1990年代から2000年代の美術理論 編」の受講生は9月から12月まで、「アート界の仕組 編」の受講生は2011年1月から3月までに開講されるフリー・ブロックから選択できます。  
\* 補講、フリー・ブロックの交換などはできません。

ギャラリーや美術館などの場を経て、自ら表現したものを社会に広げるための基礎知識や考え方について、5回の必修クラスをとおして学ぶ3ヶ月のコースです。2010年4月、9月、2011年1月に開講され、実際に作品を制作している方、またアート・プロジェクトに関わっている方を対象としています。

スタジオでの作品制作では得にくい知識や、作品制作において考えを展開・転換する方法を、レクチャーやワークショップでバックアップします。一人で制作をしていると、どうしても自分自身と作品の関係に充足してしまいがちです。そこから一歩抜け出すには、表現とお金、言説を結びつけて価値を生み出してゆくアート界や表現を投げかけるオーディエンスを具体的に思い描いてみたり、また表現を伝えてゆくための言語やコミュニケーションの技量を磨くことが不可欠です。

「アート」を支えている歴史や理論、社会を知り、アーティストとしての活動戦略を、国内外で活動しているキュレーターやアーティストとの対話をとおして深めてゆきます。また、MADキュラトリアル・スタディーズとの連携も行き、キュレーターを目指す受講者とのネットワーク作りをとおして相互の活動へのフィードバックを試みます。

このコースは、アーティストとしての現在地や方向性を客観的に見つめ直し、一歩先へ進むきっかけを持ちたい、作品と社会の関係性を探りたい、海外の美術系大学への留学を考えているという方を対象としています。

#### コースの構成

必修クラス:5回 (レクチャー+ワークショップ)

フリー・ブロック:3回

#### 必修クラス

○アート界という運動体を知る:小澤慶介(AIT)／森弘治(美術家)

アーティストとしてこれから参入するアート界。その構造と運動について概説するとともに、アート界との関係の取り方やアーティスト自らが自由度を保ちながら表現の場を獲得してゆく可能性についても言及します。

○プレゼンテーション+クリティック:小澤慶介(AIT)／森弘治(美術家)／ロジャー・マクドナルド(AIT)／堀内奈穂子(AIT)

作品プレゼンテーションと批評を行います。受講者は、作品制作における動機やプロセスを美術史や社会との関係で説明します。通常よりも長い時間をかけて行うことで、キュレーターやアーティストの意見を交えて作品や活動をより多角的に深く分析し、発展させるポイントや考え方を導き出します。

○「アート」を語り、伝える:小澤慶介(AIT)／森弘治(美術家)

アーティストが最低限身につけておかなければならない「アート」に対する考えやそれを語る言語について、美術史上の出来事を頼りに確認します。また、「アート」について考え、語るための力をワークショップで養います。

○現代社会を切り取る:小澤慶介(AIT)／森弘治(美術家)

現代アートという以上、そこには「現代」の濃淡が映し出されているといってもいいでしょう。この「現代」という時代に対する理論的な理解をレクチャーによって、また視覚・身体的理解をワークショップによって深めます。

○アーティストとしての戦略を考える:小澤慶介(AIT)／森弘治(美術家)

アーティストという職業の社会的意義をもう一度自覚しながら、進むべき道とそれを実現させる方法について考察し、アート界あるいは社会へと参入するシミュレーションを行います。

フリー・ブロック:アーティストの受講生は、コース中に開講しているフリー・ブロックから3つの講座を選択することができます。テーマはP10を、スケジュールはP14をご覧ください。

\*補講、フリー・ブロックの交換などはできません。

#### マガジン

世界のアートシーンの「いま」を知り、現代アートが投げかけるさまざまな価値を考えるための3ヶ月のコースで、2010年4月、9月、2011年1月に開講されます。

社会や経済の状況によって日々刻々と変化する現代アートの世界。その動きをリアルタイムに近い感覚でとらえるウェブ、そして評論や解説とともに洞察を加えながら伝える海外のアート・マガジン。個人コレクターによる美術館建設ラッシュ、金融危機の余波で揺れるアート・フェアやオークション、次々と新たな試みがなされる国際展などの現代アートに関する話題や、ファッションや音楽、文学、思想といった領域を横断する動きを取り上げ、ニュース記事から批評までをとおして、多様化を極める現代アートの「いま」と「これから」を眺めます。毎回、新鮮な情報を提供し、受講生どうしの話し合いをとおして、アートを多角的に読み解く力をつけます。

このコースは、世界のアートの現場や注目のアーティスト、新しい美術館の試み、話題となった展覧会、アート・マーケットの動向などについて知識を得たい社会人、学生、アーティスト、コレクターを対象としています。

#### コースの構成

必修クラス:6回

フリー・ブロック:3回

#### 雑誌とウェブサイトの例

Art Asia Pacific(アメリカ)

Art Forum(アメリカ)

frieze(英国)

Contemporary(英国)

THE ART NEWSPAPER(アメリカ／英国)

artsjournal.com

artnetなど

フリー・ブロック:マガジンの受講生は、コース中に開講しているフリー・ブロックから3つの講座を選択することができます。テーマはP10を、スケジュールはP14をご覧ください。

\*補講、フリー・ブロックの交換などはできません。

## ■ワークショップ

○コミュニケーションと身体性(7月10日)：山川冬樹(ホーメイ歌手／美術家)

ホーメイ歌手であり、パフォーマンス・アーティストでもある山川氏と共に、言葉を発することなく他者とコミュニケーションをとる方法を実験的に探求します。声と身体の可能性を引き出し、言葉以上の情報量や微妙な感情を伝える方法を発見する試みです。

○フリー・アート・ペーパーを作る(10月2日／12月4日)：柳下朋子(日本経済新聞)

フリー・ペーパー作りを通して現代アートにアプローチします。フリー・ブロック「展覧会評の書き方」と連携しながら、紙面づくりの基本を学びます。テーマを決め、取材・執筆。約2ヶ月かけて、展覧会評やインタビューなどで構成される紙面を完成させ、発表します。

○展覧会批評の書き方(11月2日)：小澤慶介(AIT)

作品や展覧会について自分の言葉で書いて、より理解を深めましょう。現場で得た視覚的・身体的経験、二次的に得たコンセプトなどの情報、そして美術史や現代思想、社会学、文学などの知識を合わせ、現代の視覚文化における作品や展覧会を読み解く力をつけます。

○都市空間を読む力(2011年1月29日)：森弘治(美術家)

多くの人々が衝突することなく行き交っているのを見ると、都市空間には、目に見えないさまざまな「きまり」があるということに気づかされます。そのような「きまり」が視覚的に表れているところを写真に撮り、何が都市空間を成立させているのかについて議論します。

## ■アートと理論

○ペテン師としてのアート：ジーン・フィッシャーを読む(4月22日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)

秩序を乱したり、そのなかから何か新しいものを生み出すペテン師。2002年開催のドクメンタ11のカタログに寄稿された、多くの文化に見られるペテン師の仕業とアートの実践を関連づけたテキストを読み、「世界」を軽やかに変える可能性について考えます。

○「美」と「崇高」(5月11日)：辻憲行(東京都写真美術館 学芸員／翻訳家)

古代ギリシアの哲学者であるプラトンとアリストテレス、18世紀ドイツの哲学者であるカントの考えを頼りに、「美」がどのように見出され、議論されてきたのかについて概観します。また、関連して論じられ、現代アートの実践に影響を与えた「崇高」についても考えます。

○ヴェネツィア・ビエンナーレ解剖(6月8日)：堀内奈穂子(AIT)

「The Experience of Art / Always a Little Further」、「Think with the Senses Feel with the Mind」、「Making Worlds」。過去3回の、ヴェネツィア・ビエンナーレの総合ディレクターが企画する展覧会をとおして、その傾向とポスト9.11の関係性を考えます。

○社会空間の文法(9月28日)：小澤慶介(AIT)

20世紀をとおして産業の成長とともに変容してきた社会空間を、フランスの哲学者ルフェーヴルや英国の地理学者ハーヴェイなどの文献を参照しながら考えます。「空間」という抽象的な概念を理解しながら、社会空間と現代アートの関係も考えます。

○「美」の政治学(10月26日)：辻憲行(東京都写真美術館 学芸員／翻訳家)

美術だけではなく、デザイン、医療、ファッションなど、現代社会のさまざまな局面で語られる「美」。その判断基準は曖昧なままに、人々の心理や身体に浸透してゆく「美」の社会的な組織化について、アガンベン、クレーリーなどの考えを参照に、議論します。

○可能／不可能な「共同体」(2011年1月11日)：小澤慶介(AIT)

移動や通信手段が発達した現代の共同体について、パタイユやナンシーなどの思想家の考えを頼りに考えます。また、身体的に関わりを持つことで成立する参加型の作品などにも触れながら、共同体形成の可能性と同時にその不可能性についても思考を巡らせます。

○「日本」を見つめる：ブルーノ・タウトと坂口安吾(2011年2月10日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)

タウトが、「日本らしさ」の構築について桂離宮を訪れた後に書いたテキストと、坂口の、日本の姿を脱構築しようとしたラディカルなテキストを比較しながら、昭和初期に「日本」という概念を支えていた要素を異なる二つの方向から読み解きます。

## ■アートと産業

○アート界の基礎構造(4月27日)：小澤慶介(AIT)

現在の日本のアート界の構造について、基礎的な知識を学びます。学校や商業ギャラリー、美術館、国際展、さらにオルタナティブな活動などの関係を明らかにしつつ、アート界というアリーナで活動するプロフェッショナルの役割にも目を向けます。

○地域社会の力とアートの未来(6月1日)：北川フラム(アートフロントギャラリー 主宰／地中美術館 総合ディレクター／新潟市美術館 館長)文化資源を再活用するなかで地域の新たなアイデンティティ作りをしてゆく地域密着型のアート・プロジェクト。外部地域・都市との関係を保ちながら、産み出される「地域」とアートの関係について、大地の芸術祭や瀬戸内国際芸術祭をとおして考えます。

○キュレーティングを海外で学ぶ(6月15日)：堀内奈穂子(AIT)

欧米の大学で開設されているキュレーティングに関するコースでは、日本の美術館学とは異なるアプローチが取られています。エジンバラ大学大学院に学び、その後に関わったドクメンタ12関連プロジェクトなどをとおして、キュラトリアル・プログラムの現在を眺めます。

○オルタナティブ・スペースに見るアートのかたち(7月8日)：中村政人(美術家)

商業ギャラリーや美術館などの制度化された領域ではなく、未だ踏み込まれていない部分のアートの形を探るオルタナティブな活動。2010年初夏に立ち上がる「3331 Arts Chiyoda」において、地元住民と専門家の協働が実現するアートのかたちに注目します。

○文化政策と変化する国立美術館(11月30日)：建畠哲(国立国際美術館 館長)

2001年4月に施行された独立行政法人化法により法人化した国立美術館ですが、展覧会などのプログラム作りにおいて、具体的にどのような変化がもたらされたのでしょうか。国内外の現代アートを扱う国立美術館の館長が、現場の状況とこれからについて語ります。

○アート・プロジェクトとマネジメント(2011年1月18日)：窪田研二(フリーランス・キュレーター)

現代アートが提示する価値を出来るだけ損なうことなく社会とつなげてゆく仕事を紹介します。時代性や現代アートに対する洞察力、コミュニケーション力をキーワードとし、窪田氏が携わった「赤坂アートフラワー08」などをとおして、必要とされるスキルを考えます。

○商業ギャラリーの仕事とグローバルなアート・マーケット(2011年2月8日)：山本裕子(山本現代 代表)

アーティストに出会い、ギャラリーの展示空間やアート・フェアなどで作品を発表しながらアーティストのマーケットを作る商業ギャラリーの仕事。目利きであると同時にプロデュース力も必要とされる職能について、具体例をとおして紹介します。

○国際交流とネットワークづくり(2011年3月1日)：帆足亜紀(アート・コーディネーター)

国際交流事業を通じて、実践に結びつくネットワークづくりをいかにして実現してゆくか。アジア大洋州地域のアーティストやキュレーター、デザイナーなどとの交流の事例を中心に、レジデンス事業を活用した国際交流の可能性と課題について議論します。

○アーティスト・イン・レジデンスをマネジメントする(2011年3月8日)：塩見有子(AIT)

アーティストを一定の期間派遣・招聘し、作品制作やそのための調査研究、人的・知的ネットワーク形成を支援する事業について、アークス・プロジェクトやAITなどのプログラムをとおして紹介し、アート界のみならず社会文化におけるその役割を考えます。

## ■アートと新しい世界秩序

○記憶の表象とスペクタクルの社会(5月18日)：小澤慶介(AIT)

明日の記憶はすでに第三者によって作られている、というのは、もはや大げさなことではないかもしれません。ドゥポールやアガンベンの考えを頼りに、世界化したスペクタクルの社会と記憶の生産の関係、またそれに関連づけられる現代アートの作品を眺めます。

○新自由主義とアートのなもの(7月1日)：小澤慶介(AIT)

グローバリゼーションを推し進め、資本(お金)の蓄積を第一義とする資本主義の一つのあり方と、そこには回収されない価値を提示し得るアートはどのような関係を結ぶことができるのでしょうか。政治哲学者ムフやランシエールの考えをとおして考察します。

○国際展のマトリックス(10月5日)：南條史生(森美術館 館長)

2010年、シドニーやシンガポール、光州、上海、台北などのアジア・オセアニアの諸都市において次々と国際展が開催されます。90年代以降に加速したビエンナーレ現象の現在について、アジアや政治、産業などをキーワードに、その現在地を探ります。

○ポスト・コロニアリズムと表象の問題(10月12日)：小澤慶介(AIT)

植民地主義が終わりを迎えても、元被植民地には政治・文化的な後遺症があるといってもいいでしょう。いわゆる西洋的なアートを受容しつつ、表現やそのための場作りをとおして自分たちの言い分を伝えていったことから、文化的な差異を埋める表象の実践を考えます。

○クレオールと不定形な世界(2011年2月15日)：小澤慶介(AIT)

もともとカリブ海の島々における人種の交わりを意味したクレオール。16世紀の大航海時代やそれに続く奴隷制にまで遡りながら、血や言語の混交やそれを可能にした海流など、根付くことなく、絶えず生まれ続ける文化の運動から、もう一つの「世界」を捉えます。

## ■アートと都市

○近代都市における芸術家の肖像と、都市の無意識(10月6日)：ロジャー・マクドナルド(AIT)

19世紀末から20世紀のはじめの都市文化と芸術家について、詩人で批評家のボードレールや思想家のベンヤミンの考えをとおし、「無意識」をテーマに考察します。世紀末といわれる時代から第一次世界大戦前夜までの都市と芸術を巡るちょっとした散歩に出かけましょう。

○情動・身体・建築(10月19日)：塚本由晴(アトリエ・ワン／建築家)

空間を一義的に設定し、使う人の情動や身体の可能性を抑圧してしまうのではなく、むしろそれらを解き放ち自由度を確保しながらさまざまな使い方を想像させるいきいきとした空間。塚本氏自身が関わった建築およびアート・プロジェクトをとおして考察します。

## 集中講座

現代アートをより深く理解するため、「現代」を、アートに深く関係するさまざまな学問領域である芸術理論、建築、アジアの近代、現代思想、写真、ジェンダーから専門的に読み解く6つの集中講座を開講します。レクチャーやディスカッションをとおして、特定のテーマについて集中的に学ぶことができます。(フリー・ブロックの受講は不可。)

○アートは、いつ「現代アート」になったのか？

5月29日(土) 13:00－15:00／15:15－17:15

レクチャー:ロジャー・マクドナルド／小澤慶介

19世紀から20世紀の美術史を紐解きながら、現代アートという運動の法則のようなものを描き出します。そのため、現代アートの始まりとされる歴史上のさまざまな地点でおこった議論に耳を傾けてみましょう。19世紀中頃のクールベやマネ、1910年代のデュシャンやピカビア、1950年代アメリカのラウシェンバーグやケージなどの作品や態度をとおして、社会の形成とアートの運動を関連づけて眺め、「現代アート」を支えているいくつかの考え方を、ディスカッションをとおして導き出します。

○建築とアートから現代を考える―美術館と展覧会をめぐる

7月2日(金)19:00－21:00／7月3日(土)13:00－14:30、15:00－16:30

レクチャー:五十嵐太郎(東北大学大学院工学研究科 教授)

宮殿を転用したルーヴル美術館に始まり、近代、ポストモダン建築を経て現代と、美術館建築は社会とともに変容しました。それは、建築そのもののみならず、それとアートとの関係性へ押し広げて考えることができます。建築を、アートを容れる箱として捉えるか、表現やデザインの方法論という点で両者を同質なものと見るか、あるいは現代建築の潮流に対してアートは影響を与えているとするのか。さまざまな展覧会やプロジェクトをとおして両者の影響関係を分析しつつ、建築とアートのつながりの未来図を想像してみます。

○アジア美術にみる複数の近代

10月29日(金)19:00－21:00／10月30日(土)13:00－14:30、15:00－16:30

レクチャー:黒田雷児(福岡アジア美術館 学芸課長)

アジアの伝統美術は西洋美術との出会いや近代的な制度や貿易によってどのように変化したのでしょうか。その過程は決して一様でもスムーズでもなく、その担い手も職人からエリート知識人までさまざまでした。インドと韓国を中心に、アジア美術が近代化に向かう苦闘において、西洋美術と独自の表現文化の間から生まれた作品のなかからアジア美術の未完の可能性を見出し、国際展や市場原理の広がりによって変容していった現代の美術を見る新たな視点を探ります。

○創造を増殖させるための『アンチ・オイディプス』再入門

11月12日(金)19:00－21:00／11月13日(土)13:00－14:30、15:00－16:30

レクチャー:廣瀬純(龍谷大学経営学部 教員)

ジル・ドゥルーズとフェリックス・ガタリの共著『アンチ・オイディプス』は「フランス現代思想」を代表する書物です。彼らの主張は、一言でいえば、「流れは切断なしには流れない」というもの。A君の話に耳を傾けていたB君が突然「ごめん、君の話をきいていたら、いい考えが浮かんだ」と、A君の話を遮る。会話はこうした切断に満ちています。映画監督のジャン＝リュック・ゴダールが二つの映像を、ジャズピアニストのセロニアス・モンクが右手と左手を組み合わせるときも同じ。創造とは切断し、流れを流すことなのです。

○写真というゲームの規則と「世界」の見方

2011年2月4日(金)19:00－21:00／2月5日(土)13:00－14:30／15:00－16:30

レクチャー:畠山直哉(写真家)

私たちの「世界」に対する見方に大きな変化をもたらした、19世紀前半に発明された写真術。近代という時代の構えと足並みをそろえながら、テクノロジーの進化にもなって変容する「世界」の光と影を映し出してきました。太陽の光によって目の前の世界が像として結ばれる。こうしたシンプルな技術ながらも、近代との関係で生じざるを得なかった「写真」の社会性を考察します。また、デジタル化の波のなかで、それでもなお(だからこそ)意識される「写真」の可能性について検討します。

○女性とアートの関係史―「ジェンダー」の表れと、まなざし

2011年3月4日(金)19:00－21:00／3月5日(土)13:00－14:30／15:00－16:30

レクチャー:笠原美智子(東京都写真美術館 事業企画課長)

女性だけでなく同性愛者などがどのように表象され、どのような関係を社会と結んできたのかについて、主に写真表現をとおして考えます。女性が社会的な主体となってアートの生産に関わり始めたのは、そう遠い過去のことではありません。1970年代にまで遡り、アメリカにおいて女性の社会進出を支えたジェンダー論とシャーマンやゴールデンなどの作品から始め、80年代から90年代にかけてさまざまな宗教や文化、社会的階層を出自とするジェンダー論と多様な現代アートの実践の関係を考察します。

○状況主義者たちの都市―戯れ、転覆、漂流(11月11日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

1950年代後半に思想家で活動家のドゥボールを中心に、パリで結成されたシチュアシオニスト・インターナショナル(SI)。権力が規定する社会空間の読みかえを、「漂流」や「転用」の実践により企て続けました。その視座や態度に宿る創造性を再考し、今日的に展開します。

○ネットカルチャーと身体性の変容(11月16日):辻憲行(東京都写真美術館 学芸員／翻訳家)

都市のイメージは、視覚化された風景や地図などで表される抽象化された図案だけではありません。YouTube、ツイッター、セカイカメラ、ニコニコ動画など、オンライン上のコミュニケーションから生まれる想像力に注目しながら、都市空間を斜めに読みます。

○1960年代のコンセプチュアル・アート(2011年2月2日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

マチューナスを中心に、オノ・ヨーコやバイクなどが参加し、「イベント」や「ハプニング」を行ったフルクサス、ニューヨークを舞台にプロジェクトを行ったマツタ=クラーク、またスミッソンなどによるランド・アートを、「エントロピー」などをキーワードに再考します。

○歴史のゲーム―公共圏の衰退期における都市創造(2011年3月2日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

都市が企業のように街づくりを事業化し、芸術文化を動員しながら新たなアイデンティティ作りを行う動きが2000年以降特にはっきりしてきました。「公共」をテーマに、国内外の事例をとおして、都市計画とアートの関係性を検証します。

## ■アートとジェンダー

○ACT－UPと表象の力学(10月14日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

1980年代に世界的に蔓延した病、AIDSは、特にアメリカの芸術文化の地勢にも大きな影響を与えました。クリンプなどの美術批評家、またゴンザレス=トレスなどのアーティストが、自分の社会的立場をどのように表象したのかについて考えます。

○1970年代のフェミニズムとアート(11月9日):堀内奈穂子(AIT)

1960年代後半にアメリカでおこった女性解放運動の影響下で現れてきた女性アーティストによる実践について、シカゴやクルーガー、ローズラー、草間彌生の作品をとおして考察しながら、「女性」とは社会的にどのような存在だったのかについて議論します。

○ジェンダーと空間の政治学(2011年2月1日):堀内奈穂子(AIT)

社会に作られる、ジェンダーと空間の関係を、アメリカの思想家パトラーなどの考えを参照に明らかにします。その上で、そのようなジェンダー化される空間に対する現代アートの関わりを、カルヤリスト、やなぎみわなどの作品をとおして描きだします。

○映像表現における身体(2011年2月22日):小泉明郎(美術家)

1960年代のアコンチやナウマンなど、ビデオアートの始まりから、時代や文化を行き来しながら、映画やテレビなど、映像文化において表わされてきた身体の政治性や可能性について、アーティストが語ります。レンズを前にして変容する身体とその表現を再考します。

## ■アートと超越的なもの

○宗教的なイコンの喪失―ロマン主義から初期抽象芸術へ(5月13日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

宗教芸術と超越的なものを表す芸術を区別することは可能でしょうか？ 19世紀前半のロマン主義時代の絵画において、宗教的なイメージがゆるやかに消えてゆく一方で、それは荒々しい自然など別の象徴に取って代わりました。西洋絵画の伝統が大きく揺らいだ時期の絵画を眺めます。

○西洋近代美術に対する、非西洋圏文化の影響(6月2日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

モンドリアンなどが所属していた神知学協会などを含め、19世紀後半におけるいくつかの重要な芸術運動に目を向けます。これらは、いずれもヒンズー教や仏教などの伝統に影響を受けながら、ニュー・エイジに似た精神性を唱え、西洋近代とは違う「世界」が目指されています。

○抽象近代絵画のもう一つの歴史―ロバート・ローゼンブラムの眼(6月10日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

ローゼンブラムは、西洋近代絵画史のもう一つの読み方を、絵画の宗教的あるいは精神的な内容に着目しながら提示しています。グリーンバーグが展開した自己批判的な発展という近代絵画史とは別様の流れを、ゴッホやムンク、ロスコをとおして眺めます。

○マーク・トービーと日本―禅の衝撃と抽象絵画(6月30日):ロジャー・マクドナルド(AIT)

初期抽象表現主義のペインターであるトービーは、1934年に来日し、禅寺に滞在しました。トービーを重要な参照軸にして、戦後アメリカのアートシーンにみる禅の影響を、音楽家であるケージやペインターであるマーデンの作品や活動をとおして考えます。

○非―知とアートの実践へ(2011年1月25日):小澤慶介(AIT)

社会の構築において有効とされ、言語化され、伝達され、共有される「知」。一方で、社会にとって不用で、言語化され得ないながらも人々に共有されている知、「非―知」に、パタイユの思考をとおして近づきます。また、「非―知」と現代アートの関係についても考えます。

	4月	5月	6月	7月
キュラトリアル・スタディーズ	14日(水) 必修レクチャー1 キュレーティングとは？ ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	19日(水) 必修レクチャー3 1960年代以降のキュラトリアルな実践 ロジャー・マクドナルド	16日(水) 必修レクチャー4 1990年代以降のキュラトリアルな実践 ロジャー・マクドナルド	7日(水) 必修レクチャー5 知の生産と展覧会 小澤慶介
	28日(水) 必修レクチャー2 展覧会をとおして見る20世紀の美術史 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	27日(木) チュートリアル1	24日(木) チュートリアル2	15日(木) チュートリアル3
アート+コミュニケーション (前期)20世紀の美術史 編	15日(木) 必修レクチャー1 彫刻の変容とモダニズム ロジャー・マクドナルド	6日(木) 必修レクチャー2 写真の歴史 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	3日(木) 必修レクチャー4 現代の絵画論 保坂健二郎	
		20日(木) 必修レクチャー3 近代から現代にかけての絵画史 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	17日(木) 必修レクチャー5 映像作品をとおしてみる現代アート 石田尚志	
アーティスト	24日(土) 必修クラス1 アート界という運動体を知る 小澤慶介／森弘治	8日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション+クリティック 小澤慶介／森弘治／ロジャー・マクドナルド／堀内奈穂子	12日(土) 必修クラス4 現代社会を切り取る 小澤慶介／森弘治	
		22日(土) 必修クラス3 「アート」を語り、伝える 小澤慶介／森弘治	26日(土) 必修クラス5 アーティストとしての戦略を考える 小澤慶介／森弘治	
マガジン	21日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	12日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	9日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	14日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介
		26日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	23日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介	
フリー・ブロック	22日(木) アートと理論 ペテン師としてのアート： ジーン・フィッシャーを読む ロジャー・マクドナルド	11日(火) アートと理論 「美」と「崇高」 辻憲行	1日(火) アートと産業 地域社会の力とアートの未来 北川フラム	1日(木) アートと新しい世界秩序 新自由主義とアートのもの 小澤慶介
	27日(火) アートと産業 アート界の基礎構造 小澤慶介	13日(木) アートと超越的なもの 宗教的なアイコンの喪失 —ロマン主義から初期抽象芸術へ ロジャー・マクドナルド	2日(水) アートと超越的なもの 西洋近代美術に対する、非西洋圏文化の影響 ロジャー・マクドナルド	8日(木) アートと産業 オルタナティブ・スペースに見るアートのかたち 中村政人
		18日(火) アートと新しい世界秩序 記憶の表象とスペクタクルの社会 小澤慶介	8日(火) アートと理論 ヴェネツィア・ピエンナーレ解剖 堀内奈穂子	10日(土) ワークショップ コミュニケーションと身体性 山川冬樹
			10日(木) アートと超越的なもの 抽象近代絵画のもう一つの歴史—ロバート・ローゼンブラムの眼 ロジャー・マクドナルド	
			15日(火) アートと産業 キュレーティングを海外で学ぶ 堀内奈穂子	
		30日(水) アートと超越的なもの マーク・トービーと日本—禅の衝撃と抽象絵画 ロジャー・マクドナルド		

	9月	10月	11月	12月
キュラトリアル・スタディーズ	16日(木) チュートリアル4	20日(水) 必修レクチャー7 オルタナティブなキュレーティングと実験性 崔敬華	17日(水) 必修レクチャー8 新しい美術館の戦略とキュレーティングの変化 逢坂恵理子	1日(水) 必修レクチャー9 地域創造とアートの関係性 小澤慶介
	29日(水) 必修レクチャー6 社会空間の読み方とキュレーティング 小澤慶介	28日(木) チュートリアル5	25日(木) チュートリアル6	16日(木) チュートリアル7
アート+コミュニケーション (中期)1990年代から2000年代 の美術理論 編	30日(木) 必修レクチャー1 インスタレーションと身体性の拡張 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	7日(木) 必修レクチャー2 つながるアート 辻憲行	4日(木) 必修レクチャー4 公共性とアートの実践 毛利嘉孝	
		21日(木) 必修レクチャー3 映像作品と視覚文化 小澤慶介	18日(木) 必修レクチャー5 アーカイヴという文化的戦略 住友文彦	
アーティスト	25日(土) 必修クラス1 アート界という運動体を知る 小澤慶介/森弘治	9日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション+クリティック 小澤慶介/森弘治/ロジャー・マクドナルド/堀内奈穂子	6日(土) 必修クラス4 現代社会を切り取る 小澤慶介/森弘治	
		23日(土) 必修クラス3 「アート」を語り、伝える 小澤慶介/森弘治	27日(土) 必修クラス5 アーティストとしての戦略を考える 小澤慶介/森弘治	
マガジン	22日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	13日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	10日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	8日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介
		27日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	24日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	
フリー・ブロック	28日(火) アートと理論 社会空間の文法 小澤慶介	2日(土) ワークショップ フリー・アート・ペーパーを作る 柳下朋子	2日(火) ワークショップ 展覧会批評の書き方 小澤慶介	4日(土) ワークショップ フリー・アート・ペーパーを作る 柳下朋子
		5日(火) アートと新しい世界秩序 国際展のマトリックス 南條史生	9日(火) アートとジェンダー 1970年代のフェミニズムとアート 堀内奈穂子	
		6日(水) アートと都市 近代都市における芸術家の肖像と、都市の無意識 ロジャー・マクドナルド	11日(木) アートと都市 状況主義者たちの都市一戯れ、転覆、漂流 ロジャー・マクドナルド	
		12日(火) アートと新しい世界秩序 ポスト・コロニアリズムと表象の問題 小澤慶介	16日(火) アートと都市 ネットカルチャーと身体性の変容 辻憲行	
		14日(木) アートとジェンダー ACT-UPと表象の力学 ロジャー・マクドナルド	30日(火) アートと産業 文化政策と変化する国立美術館 建島哲	
		19日(火) アートと都市 情動・身体・建築 塚本由晴		
	26日(火) アートと理論 「美」の政治学 辻憲行			

	1月	2月	3月
キュラトリアル・スタディーズ	19日(水) 必修レクチャー10 多義化する国際展 ロジャー・マクドナルド 20日(木) チュートリアル8	16日(水) 必修レクチャー11 アーカイヴとキュレーティングの現在 ロジャー・マクドナルド 24日(木) チュートリアル9	10日(木) チュートリアル10
アート+コミュニケーション (後期)アート界の仕組 編	13日(木) 必修レクチャー1 アート界の構造と運動 小澤慶介 27日(木) 必修レクチャー2 日本の文化政策とアートの関係 吉本光宏	3日(木) 必修レクチャー3 アート・マーケットとアートの産業化 辛美沙 17日(木) 必修レクチャー4 新自由主義と美術館の変容 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	3日(木) 必修レクチャー5 国際展の複数の役割 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介
アーティスト	8日(土) 必修クラス1 アート界という運動体を知る 小澤慶介/森弘治 22日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション+クリティック 小澤慶介/森弘治/ロジャー・マクドナルド/堀内奈穂子	12日(土) 必修クラス3 「アート」を語り、伝える 小澤慶介/森弘治 26日(土) 必修クラス4 現代社会を切り取る 小澤慶介/森弘治	12日(土) 必修クラス5 アーティストとしての戦略を考える 小澤慶介/森弘治
マガジン	12日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介 26日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	9日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介 23日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介	9日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介 23日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド/小澤慶介
フリー・ブロック	11日(火) アートと理論 可能/不可能な「共同体」 小澤慶介 18日(火) アートと産業 アート・プロジェクトとマネジメント 窪田研二 25日(火) アートと超越的なもの 非一知とアートの実践へ 小澤慶介 29日(土) ワークショップ 都市空間を読む力 森弘治	1日(火) アートとジェンダー ジェンダーと空間の政治学 堀内奈穂子 2日(水) アートと都市 1960年代のコンセプチュアル・アート ロジャー・マクドナルド 8日(火) アートと産業 コマーシャル・ギャラリーの仕事と グローバルなアート・マーケット 山本裕子 10日(木) アートと理論 「日本」を見つめる:ブルーノ・タウトと坂口安吾 ロジャー・マクドナルド 15日(火) アートと新しい世界秩序 クレオールと不定形な世界 小澤慶介 22日(火) アートとジェンダー 映像表現における身体 小泉明郎	1日(火) アートと産業 国際交流とネットワークづくり 帆足亜紀 2日(水) アートと都市 歴史のゲーム—公共圏の衰退期における都市創造 ロジャー・マクドナルド 8日(火) アートと産業 アーティスト・イン・レジデンスをマネジメントする 塩見有子

## スタッフ

ロジャー・マクドナルド〔コース・ディレクター〕

1971年生まれ。イギリスのケント大学にて宗教学修士課程修了後、美術理論にて博士号を取得。1998年より、インディペンデント・キュレーターとして、国内外で数々の小規模な展覧会を企画。2006年の第一回「シンガポール・ビエンナーレ2006」では、キュレーターとして活動。興味の対象は幅広く、キュレーティングの歴史、特権的なアートスペース以外で行われるインディペンデントなキュレーティングの可能性の研究のほか、キュレーティングと社会政治研究のための個人的なアーカイヴ作りに取り組む。2004年よりウェブログ「タクティカル・ミュージアム(The Tactical Museum)」を主宰。http://www.rogermc.blogs.com/tactical/　アートスケープ・インターナショナルに展覧会評を執筆中。武蔵野美術大学非常勤講師、女子美術大学非常勤講師。

小澤慶介〔コース・ディレクター〕

1971年生まれ。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて現代美術理論修士課程修了。これまでに、世界化する社会における「記憶」や「空間」、「身体」などの問題にアプローチしたビデオアートのグループ展「paradise views　楽園の果て」(東京国際フォーラム／2004)、「dreaming bodies　夢みる身体」(アサヒ・アートスクエア／2005)などを企画。AITにおいては、MADのカリキュラム編成を行うほか、時間限定で開館する実験的な美術館プロジェクト「16時間美術館」(ヒルサイドテラス、AIT、スーパーデラックスほか／2007)や「おきなわ時間美術館」(那覇市栄町市場古民家ほか／2007)、またアートの実践をとおして環境を考える「環境・術」(ヒルサイドテラス／2008)などの企画・制作指揮を行う。アートフェア東京アソシエイト・ディレクター。慶應義塾大学非常勤講師、女子美術大学非常勤講師。

住友文彦〔レクチャー〕

1971年生まれ。キュレーター。韓国、中国、日本のアーティストが参加した「アウト・ザ・ウィンドウ」展(国際交流基金アジアセンター／2004)、戦後の美術から最新の動向までの取り組みを取り上げた「Possible Futures:アート&テクノロジー過去と未来」展(ICC／2005)を企画。また、日本の現代美術を紹介する展覧会として「美麗新世界」(中国／2007)などの企画にも関わる。2008年には「川俣正〔通路〕」展(東京都現代美術館)のキュレーティングを手掛け、昨年はヨコハマ国際映像祭のディレクターに就任。リタリット・ティラヴァニャに関する「身体の贈与」(共著「表象のディスクール6　創造」、東京大学出版会、2000年)、「映像の中へ」(『21世紀の出会い?共鳴、ここ・から』、金沢21世紀美術館、淡交社、2004年)、「複雑で便利な時代と見えなくなるアート」(共著『21世紀における芸術の役割』未来社、2006年)、「キュレーターになる」(共著、フィルムアート社、2009年)などの論考がある。

塩見有子〔マネージング・ディレクター、レクチャー〕

学習院大学法学部政治学卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナンジョウアンドアソシエイツにて国内外の展覧会やアート・プロジェクトのコーディネート、コーポレートアートのコンサルタント、マネジメントを担当。2002年、仲間と共にAITを立ち上げ、代表に就任。AITでは、レジデンスやMADをはじめとする活動全体の企画やマネジメント、組織運営を行う。また、芸術文化に関わる基盤作りやアーティスト支援に取り組む。AITが企画協力をするマネックス証券株式会社主催の「ART IN THE OFFICE」プログラム審査委員。

堀内奈穂子〔レクチャー〕

2005年エジンバラ・カレッジ・オブ・アート現代美術論修士課程修了。「Reversible」(スコットランド国会議事堂／2007)のほか、宮永愛子の個展「闇に届けた話」(スリーパー／2007)、ジャズバーを使った一夜限りの展覧会「Improvisualization」(The Jazz Bar／2007)など、エジンバラにて展覧会を企画。また、ドクメンタ12マガジンズ・プロジェクト「メトロノーム11号　何をなすべきか? 東京」では、アシスタント・キュレーターを務めた。AITでは「PLATFORM横浜セミナーAFTER HOURS」(東京藝術大学横浜キャンパス新港校舎／2008)や「環境・術」(ヒルサイドテラス／2008)の企画補佐ほか、レクチャー・シリーズ「Tokyo Art School」(ヒルサイドプラザ／2009)の管理運営を行う。

中森康文〔アドバイザー〕

米国ヒューストン美術館(The Museum of Fine Arts, Houston)写真部門キュレーター。同美術館における2010年企画展覧会には1960年以降のコンセプチュアル・アートと写真の系譜を主題とした「Ruptures and Continuities: Photography Made after 1960」と石元泰博と丹下健三による1960年出版の共著「桂:日本建築の創造と伝統」に焦点を充てた「Katsura: Picturing Modernism in Japanese Architecture」があり、同タイトルの著作が7月に米国で出版される。著作に近現代写真及び建築に関するものに加えて、著作権と写真との関係に関するものがある。これまでにコーネル大学で20世紀美術史の教鞭をとり、またハーバード大学デザインスクール、ニューヨーク近代美術館などで日本戦後の前衛美術及び建築に関する講義を行う。米国ウィスコンシン大学ロースクール卒業(ニューヨーク州弁護士)。2010年に、コーネル大学にて美術史博士過程を修了する。(博士論文「Imagining Cities: Visions of Avant-Garde Architects and Artists in 1953 to 1970 Japan」)

宮原洋子〔サポート〕

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業。1995-2002年、ナンジョウアンドアソシエイツにおいて、国際美術評論家連盟(AICA)日本大会事務局、「横浜トリエンナーレ2001」における120名余の制作ボランティアのコーディネート、新設美術館の基礎図書資料の整備、MADの立ち上げ等に携わる。2002年、開館準備段階より森美術館に勤務。南條史生館長の秘書として現在に至る。

### MAD 2010レクチャー

ロジャー・マクドナルド (AIT)／小澤慶介 (AIT)

石田尚志(美術家／映像作家／多摩美術大学 講師)／逢坂恵理子(横浜美術館 館長)

北川フラム(アートフロントギャラリー 主宰／地中美術館 総合ディレクター／新潟市美術館 館長)／窪田研二(フリーランス・キュレーター)

小泉明郎(美術家)／塩見有子 (AIT)／辛美沙 (Misa Shin & Co. 代表／アートフェア東京 エグゼクティブ・ディレクター)

住友文彦 (AIT)／建畠哲 (国立国際美術館 館長)／崔敬華 (フリーランス・キュレーター)／塚本由晴 (アトリエ・ワン／建築家)

辻憲行 (東京都写真美術館 学芸員／翻訳家)／中村政人 (美術家)／南條史生 (森美術館 館長)／帆足亜紀 (アート・コーディネーター)

保坂健二郎 (東京国立近代美術館 研究員)／堀内奈穂子 (AIT)／毛利嘉孝 (東京藝術大学 准教授)／森弘治 (美術家)／柳下朋子 (日本経済新聞社)

山川冬樹 (ホームイ歌手／美術家)／山本裕子 (山本現代 代表)／吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所)

### 集中講座 ゲスト・レクチャー

五十嵐太郎 (東北大学大学院工学研究科 教授)／笠原美智子 (東京都写真美術館 事業企画課長)／黒田雷児 (福岡アジア美術館 学芸課長)

畠山直哉 (写真家)／廣瀬純 (龍谷大学経営学部 教員)

### 20

### MAD修了生の声

30代／女性　2002年キュレーション

受講時:学生　現在:東京都現代美術館 学芸員

授業では毎回、知的興奮で脳が発火しているかのようになった。私にとって何ものにもかえがたいのは、MADで学び、そこでさまざまな人に出会ったことで、アートに対してポジティブな信念を持つことができるようになったことである。

30代／女性　2003年キュレーション

受講時:アルバイト　現在:SCAI THE BATHHOUSE

ギャラリースタッフとして、今の自分の立ち位置から何かクリエイティブにおもしろいことはできないか、という思いを持って仕事を楽しむことができるのは、MADで培った、「アートを通して社会と主体的に関わるというスタンス」と、さまざまなネットワークのおかげだと思います。

20代／男性　2004年キュレーション

受講時:アルバイト　現在:アート・プロデューサー／財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室勤務

MADの授業で、型にはまらない様々なキュレーションの事例に触れることで、漫然と環境に身を置くのではなく、自ら仕事をつくり出す努力をしたり、プロジェクトに取り組む際に新しい価値観を提示できるよう意識することができるようになったと思う。

30代／男性　2004年キュレーション、2004年・2006年クリティカル・リーダーズ

受講時:会社員　現在:TAB／NYAB 共同設立者

http://www.tokyoartbeat.com/　http://www.nyartbeat.com

コンテンポラリーアートについて、先生と生徒という旧来の枠組みよりフラットな関係の中で、「学ぶ」というよりも「創り出していく」という姿勢を身につけることができた。仲間との出会いも多く生まれた。また、社員のスケジュールにも合っていた。

2007年アート+コミュニケーション

50代／女性　2006年マガジンコース、クリティカル・リーダーズ、

2007年アート+コミュニケーション(前・後期)、キュレーション・ベーシック(基礎)

受講時:ファンドマネージャー　現在:ハーバード大学 学術研究員(米国)

現代アートのみならずカルチュラル・スタディーズや現代思想、哲学にも興味を持つようになりました。また、アートについて話せる友達ができ、一昨年は大学で美術史を学ぶかたわら初めて展覧会制作を行いました。今年からアート教育と社会貢献のプロジェクト立ち上げのために大学の学術研究員として渡米しています。

2007年アート+コミュニケーション

20代／男性　2006年クリティカル・リーダーズ

受講時:無職　現在:東京都現代美術館 学芸員

異なる世代、職業の人々が集まってアートについて真剣に意見を交わす貴重な場でした。修了後も、MADを通じて知り合った仲間たちと勉強会を開いたり、アート・プロジェクトを行っています。それが可能なのも、多様な背景をもつ人間達が、アートへの強いモチベーションで結びつく場だったからと思います。

2007年アート+コミュニケーション

60代／男性　2007年アート+コミュニケーション(前・後期)

受講時:無職／一カ所の美術館でのボランティア・ガイドスタッフ　現在:無職／三カ所の美術館でのボランティア・ガイドスタッフ

アートについて「何でもみてやろう精神」でこのコースを受講しましたが、講義や講師、また一緒に受講した仲間も、いずれも刺激的で貴重なものでした。また、これまであまり縁のなかった「哲学」に、MADの講義をとおして興味を持ちました。

2007年アート+コミュニケーション

40代／男性　2007年アーティスト、2007年アート+コミュニケーション(前期)

受講時:アーティスト　現在:アーティスト

作品の方向性に確信がもてなかった時期に受講しました。MADの良いところは、レクチャーと受講生の相互対話で授業が進むことです。現代アートをより客観視できたことで、作家としての立脚点をはっきりさせ、作品への理解や考えに厚みが増しました。現在でも制作を続けているのは、そのお陰かと思っています。

2007年アート+コミュニケーション

20代／女性　2008年キュレーション・プラクティス

受講時:派遣社員　現在:CREAMヨコハマ国際映像祭2009 アシスタント・キュレーター

レクチャーも魅力の一つですが、何より、自分たちの手で展覧会やイベントをつくりあげることに面白さを感じました。実践に移す作業は時に困難も伴いますが、それを超えた「現場」を作り出す喜びがあります。MADでの経験をとおして、次なる現場に向き合っていることに感謝しています。

2007年アート+コミュニケーション

40代／男性　2009年キュレーション・ベーシック

受講時:会社員　現在:青森県十和田市にて合同会社を設立し起業

青森県から通うことはある種の賭けでしたが、学ぶ内容が新鮮で、苦ではなかった。倫理観、社会規範、コミュニケーションが変化しているにも関わらず、自分の考えが固定化していたことに気づかされました。また、意見交換では新しい視座を発見でき、作品や作家について思慮することが一段深くなりました。

2007年アート+コミュニケーション

20代／女性 2008年アーティスト、2009年アート+コミュニケーション(前期)

受講時:会社員　現在:アーティスト

美術史とアートシーンの状況を学び、自身の作品がアート界の中でどこに位置しているのかを考え始めました。また、レクチャーや受講生との意見交換に刺激をうけ、さまざまな視点を持つことを学びました。MADで培った柔らかな思考を持って、来年は英国で自身の表現を実践してきます。

2007年アート+コミュニケーション

40代／男性　2008年アート+コミュニケーション(後期)、2008年マガジン(冬)、2009年マガジン(春)

受講時:オルタナティブスペース・スノドカフェ 主宰　現在:オルタナティブスペース・スノドカフェ主宰

静岡市でスペースを運営していますが、アートへの実践的な知識を得るために受講。アートを具体的かつ多面的に学びました。東京へ通うことは負担が少なくないのですが、その場でしか得られない貴重な時間でした。アートと人を繋ぐ「場」の重要性を再認識し、現在の活動にフィードバックしています。

2007年アート+コミュニケーション

MAD受講生のデータ

学生／学生以外の比率:学生30%、学生以外70%

年齢層:19才～82才まで(20代後半～30代の方が最も多い)

## コース概要

キュラトリアル・スタディーズ[12ヶ月]

期間＝2010年4月14日(水)－2011年3月10日(木)

時間＝19:00－21:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝25人

費用＝212,100円(税込)[受講料185,000円＋施設維持費2,000円＋資料費15,000円]

割引＝アート＋コミュニケーションを同時にお申し込みの場合、受講期間に応じた受講料の割引があります。

アート＋コミュニケーションを1期申し込む場合:273,315円(通常287,700円の5%割引)

2期申し込む場合:337,869円(通常363,300円の7%割引)

通年申し込む場合:395,010円(通常438,900円の10%割引)

受講資格＝特になし。

アート＋コミュニケーション[前期:4ヶ月／中期:4ヶ月／後期:3ヶ月]

期間＝前期必修レクチャー:2010年4月15日(木)－2010年6月17日(木)

中期必修レクチャー:2010年9月30日(木)－2009年11月18日(木)

後期必修レクチャー:2011年1月13日(木)－2011年3月3日(木)

時間＝19:00－21:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝各回 20人

費用＝75,600円(税込)[受講料70,000円＋施設維持費2,000円] <各回>

割引＝一度に2期以上お申し込みの場合、受講期間に応じた受講料の割引があります。

2期申し込む場合:143,640円(通常151,200円の5%割引)

通年申し込む場合:210,924円(通常226,800円の7%割引)

受講資格＝特になし。

\*割引受講料は、同時に2期以上お申し込みする方を対象としています。

\*受講できるレクチャー数は、前・中・後期で、それぞれ同じです。

アーティスト[3ヶ月]

期間＝春2010年4月24日(土)－2010年6月26日(土) 第2・4土曜日

秋2010年9月25日(土)－2010年11月27日(土) 第2・4土曜日(一部変更あり)

冬2011年1月8日(土)－2011年3月12日(土) 第2・4土曜日

時間＝14:00－16:00 ただし、5回の必修クラスのうち2回目は、13:00－17:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝各回12人

費用＝38,850円(税込)[受講料35,000円＋施設維持費2,000円]

受講資格＝作品を制作しているアーティストを対象。

マガジン[3ヶ月]

期間＝春2010年4月21日(水)－2010年7月14日(水) 第2・4水曜日

秋2010年9月22日(水)－2010年12月8日(水) 第2・4水曜日

冬2011年1月12日(水)－2011年3月23日(水) 第2・4水曜日

時間＝19:00－21:00

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝各回12人

費用＝36,750円(税込)[受講料33,000円＋施設維持費2,000円]

受講資格＝特になし。

\*8月と9月の一部は休講です。 \*上記は必修レクチャーの期間です。フリー・ブロックの日程はP14-19でご確認ください。 \*記載している情報は、2010年1月現在のものであり、必修レクチャーおよびフリー・ブロックの内容や日程、レクチャーなどは、変更される場合があります。その場合は、事前に告知されます。

MAD2010 無料説明会「MADオープンデー」

<2010年度全基本コース説明会>

2010年1月29日(金)19:00－20:30／2010年2月19日(金)19:00－20:30／2010年3月5日(金)19:00－20:30

全コースについての説明会を上記日程で開催します。お申し込み希望の方は、件名を「○月○日MADオープンデー参加希望」とし、住所、氏名、電話番号、興味のあるコース名を明記したメールを、office@a-i-t.netまでお送りください。折り返し確認メールを送付いたします。

<2010年度秋期・冬期開講基本コース説明会>

秋期開講コース説明会 2010年7月16日(金)／8月27日(金)19:00－20:30 冬期開講コース説明会 2010年11月26日(金)19:00－20:30

集中講座

[1] アートは、いつ「現代アート」になったのか? レクチャー＝ロジャー・マクドナルド(AIT)／小澤慶介(AIT)

期間＝2010年5月29日(土) 1日のみ

時間＝13:00－15:00、15:15－17:15

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝8,400円(税込)

[2] 建築とアートから現代を考える―美術館と展覧会をめぐって レクチャー＝五十嵐太郎(東北大学大学院工学研究科 教授)

期間＝2010年7月2日(金)、3日(土) 2日間

時間＝19:00－21:00[7月2日(金)]、13:00－14:30、15:00－16:30[7月3日(土)]

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝12,600円(税込)

[3] アジア美術にみる複数の近代 レクチャー＝黒田雷児(福岡アジア美術館 学芸課長)

期間＝2010年10月29日(金)、30日(土) 2日間

時間＝19:00－21:00[10月29日(金)]、13:00－14:30、15:00－16:30[10月30日(土)]

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝12,600円(税込)

[4] 創造を増殖させるための『アンチ・オイディプス』再入門 レクチャー＝廣瀬純(龍谷大学経営学部 教員)

期間＝2010年11月12日(金)、13日(土) 2日間

時間＝19:00－21:00[11月12日(金)]、13:00－14:30、15:00－16:30[11月13日(土)]

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝12,600円(税込)

[5] 写真というゲームの規則と「世界」の見方 レクチャー＝畠山直哉(写真家)

期間＝2011年2月4日(金)5日(土) 2日間

時間＝19:00－21:00[2月4日(金)]、13:00－14:30、15:00－16:30[2月5日(土)]

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝12,600円(税込)

[6] 女性とアートの関係史―「ジェンダー」の表れと、まなざし レクチャー＝笠原美智子(東京都写真美術館 事業企画課長)

期間＝2011年3月4日(金)、5日(土) 2日間

時間＝19:00－21:00[3月4日(金)]、13:00－14:30、15:00－16:30[3月5日(土)]

場所＝AITルーム(代官山)

定員＝20人

費用＝12,600円(税込)

\*集中講座の内容と日程-1は、変更される場合があります。その場合は事前に告知されます。

\*受講資格は、特にありません。

\*フリーブロックは、受講できません。

MADおよび集中講座お申し込み方法

AITのホームページよりお申し込みいただくか、下記問い合わせ先まで、お名前、ご住所、ご連絡先(電話、ファックス、携帯電話など)を明記の上、メールにて申込書をご請求ください。各コースの受講生募集期間と地図は、AITのホームページをご参照ください。

※原則として、申し込みが受理された後のキャンセル・返金は受け付けません。 ※定員に達した場合はお断りする場合があります。

問い合わせ先＝特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-3 ツインビル代官山A-502

Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266 E-mail: office@a-i-t.net http://www.a-i-t.net

2010年5月(予定)にオンラインのMADが新しく開講します。コースは、20世紀におけるアートの進化を1900年から1年ずつ丁寧に紐解いてゆく「1900年以降のアートの歩み」と、世界のアートシーンから注目の話題を解説する「現代アートの最前線」の2コースです。

#### ○1900年以降のアートの歩み (Art Since 1900)

2004年に英国で出版された20世紀芸術の概説書、『1900年以降の芸術—モダニズム、アンチ・モダニズム、ポスト・モダニズム (Art since 1900 : Modernism, Antimodernism, Postmodernism)』を読み進めながら、1900年から2003年までのアートが進化した道すじを学びます。本の構成にあわせ、1回のレクチャーで1年を目安に扱い、アートの流れを変えた芸術運動や思想、作品、批評を取り上げて解説します。レクチャーは各回30分間行われ、2010年度は、前・後期をととして1900年から1949年までのアートの歩みを捉えます。現代アートの歴史を少しずつ時間をかけて学びたい方、MADのコースにおける知識を補完したい方を対象としています。

#### ○現代アートの最前線 (Art Information)

海外のアート雑誌やウェブサイトなどからの記事を取り上げ、アート・マーケットの動きや新たな美術館の試み、話題のアーティストの新作や展覧会、また、デザインや建築などの分野に至るまで、アートシーンの最新動向を幅広く紹介します。レクチャーでは、各回配布される記事に登場する英語のキーワードを日本語で解説します。アート界をいくつかの断面から大胆に眺め、現代アートへの好奇心を刺激するMADマガジン・コースの簡易版です。

#### コース概要

##### [1] 1900年以降のアートの歩み レクチャー: ロジャー・マクドナルド (AIT)

前期=2010年5月開講 / 「1900年から1926年まで」 印象派から構成主義、ダダまでの流れを学ぶ

後期=2010年11月開講 / 「1927年から1949年まで」 シュルレアリスムからアメリカ抽象表現主義までの流れを学ぶ

各回30分(教材あり) / 各6ヶ月コース・毎週金曜日にレクチャーを更新

費用=各期 ¥21,000 (税・諸費用込)

受講資格=特になし。

##### [2] 現代アートの最前線 レクチャー: ロジャー・マクドナルド (AIT)

春期=2010年5月開講

秋期=2010年9月開講

冬期=2011年1月開講

各回30分(教材あり) / 各3ヶ月コース・隔週金曜日にレクチャーを更新

費用=各期 ¥8,400 (税・諸費用込)

受講資格=特になし。

#### お申し込み方法

AITのホームページよりお申し込みください。お申し込みは随時受け付けています。開講中の講座への途中参加の場合でも、お申し込みいただいた学期内であれば、過去のレクチャーを何度でも視聴することができます。

\*E-MADは、個人情報を登録してお申し込みいただくインターネットサービスです。受講のお申し込みの前にAITのホームページにて「プライバシー・ポリシー」および「ご利用環境について」をあらかじめご確認ください。 \*E-MADでは、レクチャーの「サンプル動画」をご用意しています。受講の前に、必ず「サンプル動画」を視聴の上、コンピューター動作に問題がないかお確かめください。 \*法人での受講をご希望の場合は、別途お問い合わせ下さい。

問い合わせ先=特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-3 ツインビル代官山A-502

Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266 E-mail: office@a-i-t.net http://www.a-i-t.net